

新潟市農業構想の中間見直しについて

近年の農業を取り巻く環境の変化

現在の新潟市農業構想

(1)「儲かる農業」に向けた農業生産基盤の整備・保全

施策 1	優良農地の整備促進
施策 2	低平地を支える基幹的な農業水利施設の整備・保全
施策 3	農地の保全と活用

(2)生産性向上と持続性の両立に向けたスマート農業技術の導入促進

施策 4	スマート農業やデジタル技術の活用
------	------------------

(3)意欲ある担い手等の確保・育成

施策 5	新規就農者・農業を担う者等の確保・育成
施策 6	多様な人材が活躍できる環境づくり
施策 7	農業経営の確立

(4)新たな需要に応える農産物の生産体制の強化

施策 8	水田経営における所得の確保
施策 9	園芸生産の導入と拡大
施策 10	農産物の安定生産
施策 11	脱炭素・環境負荷低減の促進

(5)所得拡大に向けた販売力の強化

施策 12	官民連携による販売促進体制の確立
施策 13	国内外の新たな販路開拓

(1)地域資源を活用し、コミュニティの活力を創出

施策 14	新規事業展開への支援
施策 15	農業を通じた活躍の場の提供
施策 16	多面的機能のさらなる発揮

(2)食と農への理解促進とシビックプライドの醸成

施策 17	農業体験機会の提供
施策 18	食育・花育の推進
施策 19	地産地消の推進

(3)新潟の農産物と食文化を全国に発信

施策 20	食と花、食文化の魅力発信・PR
施策 21	食の魅力を活用した他分野との連携の促進

2つの基本方針

基本方針

1

売れる米づくりと園芸産地づくりの推進

基本方針

2

農業を活かしたまちづくり

農業を取り巻く環境の変化

■社会情勢

- ①国際情勢の不安定化
- ②農村地域の人口減少と高齢化
- ③物価高騰

■農業・農村の現状

- ①国の水田政策の見直し
- ②異常気象の頻発化、激甚化
- ③農業生産資材費の上昇

■担い手

- ①農業従事者の減少
- ②農業従事者の高齢化
- ③経営体当たりの耕地面積の拡大

■農業農村整備事業

- ①物価高騰による事業費の上昇
- ②水利施設の老朽化
- ③異常気象の頻発化、激甚化

■食に対する考え方の変化

- ①コメ消費の大幅な減少
- ②ライフスタイルの変化
- ③食の安心・安全への関心の高まり

■世界・地域への情報発信

- ①国内外での販路開拓や販売促進
- ②SNSによる情報発信

第5章 農業構想における目標

本構想の将来像「食と花の都～都市と田園の調和を活かした持続可能な農業の実現～」の実現に向け、本構想における指標および目標を次のように設定します。

基本方針		指 標	現状値 令和 3 (2020) 年度	目標数値 令和 12 (2030) 年度
1 売れる米づくりと園芸産地づくりの推進	(1) 「儲かる農業」に向けた農業生産基盤の整備・保全 (2) 生産性向上と持続性の両立に向けたスマート農業技術の導入促進 (3) 意欲ある担い手等の確保・育成 (4) 新たな需要に応える農産物の生産体制の強化 (5) 所得拡大に向けた販売力の強化	①ほ場整備率	52.3%	65%
		②市管理農業用排水機場の機能保全計画に基づく長寿命化対策の実施率	50%	毎年度 100%
		③認定農業者等への農地集積率	70.9%	85%
		④新規就農者数	80人 (令和 3 年)	85 ~~70~~ 人 (令和 12 年)
		⑤環境への負荷を低減させる取組の面積	31,403a	58,000a
		⑥農業産出額うち米・麦・大豆等主要作物の産出額及び交付金	343.1 億円 (令和 2 年)	拡大 させる
		⑦1 億円園芸産地の販売額の合計額	102.3 億円 (令和 3 年)	163.2 ~~133.8~~ 億円 (令和 12 年)
2 農業を活かしたまちづくり	(1) 地域資源を活用し、コミュニティの活力を創出 (2) 食と農への理解促進とシビックプライドの醸成 (3) 新潟の農産物と食文化を全国に発信	⑧登録した農業サポーターのうち活動した人数 (登録者全体に対する割合)	142人 (34%)	210人 (50%)
		⑨多面的機能支払交付金事業によって広域的に保全管理される農用地面積の割合	81%	95%
		⑩食と農のわくわくSDGs 学習プログラム実施校数	—	60 校
		⑪学校給食における地場産物を使用する割合 (金額ベース)	県産 58.4%	県産 61.9%
		⑫新潟市食文化創造都市推進プロジェクトの採択事業数	83 件	123 ~~147~~ 件

新潟市農業構想における目標数値の修正について(案)

新潟市農業構想の計画期間3年目にあたり、本構想の指標及び目標数値の中間見直しを検討した結果、以下の3つの指標に対する目標数値を修正する。

指標④	新規就農者数										
目標数値 及び実績	令和3年度 構想策定時	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和12年度 従来目標	令和12年度 新規目標
	80人	95人	85人	80人						毎年度70人	毎年度85人
目標数値の 変更の理由	平成30年以降目標の70人以上を確保しており、本市の耕地面積を維持するために必要な新規就農者数や、農林業センサス2025の公表値を踏まえて就農後の農業を継続する期間を算定し、従来より高い目標を設定した。										
目標を達成する ための主な事業	にいがたagribase事業、女性の就農環境改善事業、新規就農者経営開始資金										
今後の施策 の方向	将来に渡って本市の農業の発展を支える担い手となる人材を確保するため、新規就農者の経営安定化や栽培技術向上、相談対応などの支援を行うほか、新規就農者の確保に向けた取組みを進めていく。										

指標⑦	1億円園芸産地の販売額の合計額										
目標数値 及び実績	令和3年度 構想策定時	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和12年度 従来目標	令和12年度 新規目標
	102.3億円	113.9億円	126.7億円	133.2億円						133.8億円	163.2億円
目標数値の 変更の理由	令和7年度が将来目標に近い実績となっていることから、過去8年間の実績を踏まえ、当初目標より高い目標を設定した。										
目標を達成する ための主な事業	- 元気な農業応援事業「園芸等対策支援」(市) - 元気な農業応援事業「新たな産地づくり支援」(市)										
今後の施策 の方向	県や農協等関連団体と連携し、高収益な園芸農業の拡大を進めるとともに、トップセールスによる販路拡大などに取り組むことで、販売額の増加に努める。										

指標⑫	新潟市食文化創造都市推進プロジェクトの採択事業数										
目標数値 及び実績	令和3年度 構想策定時	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和12年度 従来目標	令和12年度 新規目標
	83件	94件	98件	103件						147件	123件
目標数値の 変更の理由	継続性を重視した直近の採択実績を踏まえ、1年度についての採択件数の目標を4件とする。										
目標を達成する ための主な事業	食文化創造都市啓発事業										
今後の施策 の方向	令和8年度より1件あたりの補助額を拡充し、取り組みの質と効果の最大化を図る。これにともない目標件数は下方修正するが、より手厚く実効性の高い支援体制を構築し、食文化創造都市の推進を確実に進めていく。										